

麻生区役所太陽光発電所から自然エネルギーを普及させるために

おひさまだより

発行 麻生区クールアース推進委員会 2012年3月 vol.24

麻生区役所屋上太陽パネル設置8・9周年記念

おひさまコンサート



2011年11月13日(日) 麻生区役所ロビー・ひろば

目次

- ・おひさまコンサート・・・・・・・・・・ 1
- ・あさお区民まつり・・・・・・・・・・ 2
- ・出前授業・・・・・・・・・・ 3
 百合丘小学校・はるひ野小学校
- ・麻生区に花時計第1号を設置・・・・・・・・ 4
- ・編集後記・・・・・・・・・・ 4



ひろばに展示された川崎市電動公用車とソーラークッカー。



コンサートは、平成22年度に企画され、平成23年3月12日に開催予定となっていたが、その前日に発生し多くの課題を今なおこの国に残している東日本大震災によって中止となりました。年度が改まってから、再企画されました。この企画は、実行委員会の行う啓発活動のひとつとして、環境問題に造詣の深い講師をお招きしての講演会などとは別に、出来るだけ多くの市民にお集まりいただけるものにしようと考え、市民との協働事業として活発に活動している「麻生芸術のまちコンサート実行委員会」のご協力も得て、実現しました。

当日は、コンサート会場となる区役所ロビー前の広場で当委員会の活動紹介パネルやソーラークッカー太陽熱

温水器の展示とともに、川崎市の公用車、日産自動車販売(株)、三菱自動車販売(株)のかわいい電気自動車も協力展示いただきました。

午後1時半から、委員会の活動紹介の後、約1時間にわたって百合小と千代小の児童合唱、ピアノ、ヴァイオリンやハーブ演奏、ソプラノ独唱などを楽しみ、参加者全体の合唱で終了しました。その後、平成14年に設置された屋上の太陽光発電設備見学会を実施して、多くの方の参加を得、太陽光パネルもアピールしました。

出演者の皆さんからも「気持ち良く演奏できた」と好評で、ご協力頂いた方達に感謝しながら、このエネルギーを次の展開へ生かしたいものです。(樋口誠、林恵美 記)





温かい心に支えられ、子どもたちは子どもが本来持っている自然な子どもらしい声で、のびのびと歌うことができました。学校としても社会に子どもたちが結びつくことが教育の根幹であることは重々承知しているので、よい機会を与えてくださり、心より感謝しております。

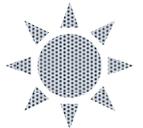
自然エネルギー普及のための企画に出演させていただけて光栄でした。とても気持ちの良い演奏をさせていただきました。子どもたちの歌声にも心洗われました。

心に染みいる音楽の調べ、日ごろのあわただしさを忘れ、癒しを感じるひと時でした。



あさお区民まつり

2011年10月9日(日) 区役所広場



今年はパレードや舞台、福引などの行事は行われませんでした。好天に恵まれ大勢の方々の参加があり、「麻生区クールアース推進委員会」のブースも賑わいました。

「省エネ」および「太陽の光と熱の利用」をアピールする展示をしました。「省エネ」の点からは、白熱電球、蛍光灯、LED電球を手回し発電機で点灯させることにより、この三つの電球の消費電力量の差を体感してもらいました。このコーナーは、特に子供たちに人気があり、一生懸命発電機を回して、一番消費電力量の多い白熱電球が点灯すると歓声をあげていました。小さい子供は親と協力して回し、点灯を喜び合うなど、エネルギーの大切



さや省エネを楽しく体験してもらうことができました。

「太陽の光と熱の利用」

の点からは、展示と見学会を行いました。太陽光発電パネル、種々のソーラークッカー、太陽熱温水器などを展示。関心を集めたのは、パラボラ型のソーラークッカーです。どれほどの時間で調理できるか、ベランダでも可能か、価格は？などの質問が多数ありました。見学会は、区役所屋上に設置してある太陽光パネル。設備の説明はもとより、10年以上も前に麻生区住民の提案を区役所が採用して設置となった経緯も説明し、麻生区の環境への取組を理解していただきました。太陽光発電への興味が、自然エネルギーの普及につながることを期待しました。

(松下和夫 記)



百合丘小学校 2011年11月21日(月)

とても気持ちの良い秋晴れの下、区役所を出発して、9時50分に百合丘小学校正門に到着。トレードマークのエプロンをきて、テキパキと機材を搬入しスタートです。

百合丘小学校は校舎の建て替え中で、講義はプレハブの校舎で行い、外での体験実習の4つのコーナーは、少し狭い校庭でしたが、協力してスペースを確保しました。



百合丘小学校の5年生66名の子どもたちに対し、総合学習の時間を使って10時50分～プロジェクターで「地球

温暖化と自然エネルギー」の講義が始まりました。子どもたちはとても熱心で、真剣に聞いてくれました。白熊さんのことや日本や東京の夜が明るいこと、感想や質問も述べてもらい、25分の講義後、校庭に移動しました。

11時25分より「おひさまと遊ぼう」をテーマに(1)ソーラー自動車、(2)おひさまボックス、(3)手回し発電機、(4)ソーラークッカーの4つのコーナーを体験してもらいました。子どもたちはやはり自ら体験することでいろいろな興味を持ち、経験を積みます。私たちも勉強になりました。特にサツマイモや目玉焼きの試食では、太陽のエネルギーの凄さに感心したようでした。

まとめとしてクイズや質問・感想・インタビューをして、12時20分に終了しました。

最後に全員が校庭に整列して、私たちに感謝の挨拶をしてくれたのには感激しました。この子どもたちが大人になり、エネルギー問題や環境問題に大いに関心を持ってくれることを期待しました。

後日、ご担当の中嶋先生より丁寧なる感謝の手紙を頂き、担当委員全員がパワーを頂きました。

(友政一幸 記)

はるひ野小学校 2012年1月18日(水)

5年生の児童数が113名と多く、外での体験実習は初めて二部制を試みました。従って何時もより全体で1時間多く取ってもらい、教室での授業もゆっくりと出来ました。地球温暖化や、自然エネルギーの話は、少し難しかったのか、後日沢山の質問が寄せられました。実はそれは大歓迎なのですが、外での体験学習は今までの2倍のお話をしなくてはならず、口がまわらなくなった気もしましたが、時間の余裕もあり、人数も少なく、また手回し発電機の数も多かったので、全員が試みていました。天気にも恵まれ、目玉焼きも短時間で出来たし、ソーラーカーやソーラーおもちゃも良く動いていました。

これまでは校庭でしていたまとめのクイズ、感想も教室に戻ってしました。この部分は事前に打ち合わせしていなかったのですが、質問応答などに時間がとれて良かったと思います。最後に先生から「君達も川崎市民の一人、社会人になるのだから、川崎市も頑張っている、一人一人何が出来るか真剣に考えてほしい」とのお話がありました。講義の内容で身近な自然エネルギーや川崎のメガソーラーのことも入っていたのが、良かったと思います。



なお、はるひ野小は初訪問でしたが、校長先生から「屋上に太陽光パネルが設置されているのですが、モニターの表示板が中学校に付けてあり、小学生は表示板を日常的には見ることはできません。また風力発電もあって、池の水の循環エネルギーとして使っている」と伺いました。川崎市のかんりの学校には、一昨年からスクールニューディールで太陽光パネルが導入されたようです。これらが環境教育などに生かされるために、何らかの工夫がいるのかもかもしれません。「そのような学校に対して委員会が何かお手伝いできることがあれば」と飯田委員長は語っていました。

(宮河悦子 記)



麻生区に花時計第1号を設置!

2011年12月18日(日)
新百合グリーンプラザ商店街まつり

麻生区クールアース委員会に花時計プロジェクトが作られて2年になります。当初、ソーラー発電で作動する花時計や水循環させるビオトープの池両方を区内に設置しようと試みました。そこで、稲城市若葉台公園の脇から出る湧水の流れを利用したホタルの育成地や敷地内にソーラー発電で地下水をくみ上げ、流れを作ってホタルを育てている伊勢原の幼稚園なども見学しました。しかし、両方を進めていくのは難しく、当面はソーラー発電で作動する花時計を増やして、多くの市民に自然エネルギーについての理解を深めてもらおうと、区内の名所的場所にたくさん作っていくことにしました。千葉県市原市牛久町では町のあちこちに花時計を設置していると聞き、メンバー全員で見学に行きました。

麻生区でも区内の商店街と連携して進めていこうと、商店街連合会の会長さんを尋ね、私たちの話を聞いていただきました。最初に新百合グリーントウン内のグリーンプラザ商店街が候補に挙がり、代表の方と話し合いました。その結果、精力的に取り組んでいる中原区プレーメン通り商店街を見学した上で、街活性化の試みとして、花時計の設置を検討していくことになりました。

12月18日(日)、グリーンプラザ商店街まつりは好天に恵まれ、専修大学の学生さん達は地元の子供達や環境保護サークルの人たちとたくさんの花を植え、

麻生区設置第1号の花時計が太陽エネルギーで動き始めました。シンボルとして街の活性化に役立つよう願っています。プロジェクトとしては引き続きあちこちに花時計を設置したいと思っています。

まつりの「太陽と遊ぼう」のコーナーではソーラークッカーが大活躍し、さつまいもはふっくらと蒸しあがり、ラスクはあっという間にカリカリになり、ホットケーキにピザトーストとメニューも豊富で、立ち寄ってくださった方々が、太陽エネルギーの素晴らしさを実感できた1日でした。

(岩田輝夫、林恵美 記)



編集後記

東日本大震災と原子力発電所の事故から1年が経過しました。この2つが残した大きな爪痕は、心身両面で、簡単には癒やしようがありません。原発に対しては必要論から脱原発論まで議論されていますが、電力業界の現状や放射性廃棄物処理などを考えると、脱原発という方向に行かざるを得ない気がします。

今後の社会は「サステナビリティ(持続可能性)」がキーワードとなります。私たちには、未来世代への

責任として適切な(足るを知る)生活水準が求められます。この面からも、エネルギーの在り方が問われ、今後は太陽光や風力、地熱などのクリーンエネルギーの開発をさらに加速・応用していく必要があります。

この災難を新しい仕組みに踏み出す1つのターニングポイントにできるかが、私たちに問われていると思いますが、如何。

(室中善博、児嶋脩 記)

発行 : 麻生区クールアース推進委員会(委員長 飯田和子)

編集担当 : 児嶋脩、室中善博、松下和夫、林恵美

問合せ先 : 麻生区役所地域振興課 川崎市麻生区万福寺 1-5-1

Tel044-965-5116 Fax 044-965-5201

発行日 : 2012年3月21日